

# Your field Vol.10



## ▼PICK UP

- ボランティア支援室とは？ —p.2
- 神奈川大学のボランティアって…？ —p.4
- ボランティア体験記 —p.5
- ボランティア関連のオススメ本 —p.6

RENEWAL VERSION

# ボランティア支援室とは？

みなさんは神奈川大学の「ボランティア支援室（ボラ室）」を知っていますか？

今までに利用した方もいらっしゃると思いますが、まだ知らない人のためにどんな所なのかをご紹介します！

## 1 ボランティア情報がたくさん集まる場所

ボランティア支援室には学内外から様々なボランティア情報が集まってきます。それらの情報は、ボランティア支援室内の掲示板に掲示されます。「環境」、「福祉」、「児童」など6種類のジャンルに分かれておりその中から自分に合ったものを探ることができます。

## 2 学生のボランティア活動をサポートする場所

ボランティア支援室では、「ボランティア活動してみたいけど、どうすればいいんだろう？」、「初めてだから不安だな」という方に向けて、ボランティアを探るところから、申込み、当日のボランティア活動までのサポートを学生スタッフが行っていきます。

大学生の間は時間があり何でも経験できるチャンスだと思いますので、少しでも興味のある方はぜひお越しください

## 3 場所と開室日時

ボランティア支援室は19号館の305にあります。

19号館は生協がある建物のことです。ドアの前には「ボランティア支援室」と書いた看板がありますので、見ていただければわかると思います。開室日時には、常に部屋の中に人がいるので、気軽に入ってみてください！

○【開室日】は月曜日から金曜日

○【時間】10時から17時まで(13時から14時は昼休み)開いています。



# ボラ室の利用の仕方

前のページでは、「ボランティア支援室」についての紹介をしましたが、大体わかっていただけましたでしょうか？今度は実際に利用する方法をご紹介します！

## 1. 来室

ボランティア活動してみたい方は、まず一度ボランティア支援室にお越しください！開室中はほとんどの時間に学生スタッフがいますので気軽に入ってきてくださいね♪

## 2. ボランティア情報の閲覧

6つのジャンルに分かれたボランティア情報の中から好きなものを選びます。もしやりたい分野が決まってない方は、学生スタッフと一緒に探します。もし、掲示物の中にやりたいものがなかった場合には希望のボランティアを探して、後日連絡をさせていただきます。

## 3. 申込み

やりたいボランティアが決まったら、申込みを行います。スタッフと一緒に申し込みの手続きを進めます。また、実際にボランティアをする場合には、万が一けがや事故が起こった場合のボランティア保険(280円)に加入が必要になるので、保険の手続きも一緒に行います。

## 4. ボランティア活動

当日は、貴重な体験ができると思うので、けがの無いように頑張ってください！

## 5. 体験レポート

ボランティア活動が終了したころに、スタッフからご連絡いたします。当日の様子や感想などを聞かせていただきたいと思います。



# 神奈川大学のボランティアって…?



法学部自治行政学科2年

黒坂 勇斗さん

## GLOVAL☆YEN☆LEAP

私達は現在1、2年生合わせて75名で活動しています。

主に福祉と環境に関するボランティア活動をしており、福祉のボランティアは児童と障害児を対象とした活動をしていて、小学校や地域のケアプラザなどで活動します。また、環境のボランティアとしては清掃活動などがあり、遠出して活動することもあります。週に1度は必ずボランティア活動をしており、多いときには一週間に3~4回活動をするときもあってとても活発に活動している部活です。現在は、新しい取り組みとして街づくりのプロジェクトを検討中で六角橋商店街の会長さんと相談をしている段階ではありますが、とても楽しみです。

今後は神大のボランティアといえば、「GLOBAL☆YEN☆LEAP」と言われるくらい活動内容の充実と規模の拡大を目指したいと思います。また湘南平塚キャンパスにもいくつかボランティア団体があるので、それらの団体と交流していきたいと思っています。



## SUNS

私達は現在65名で活動しています。

活動は、園児から高校生までの知的障害を持った子どもたちを対象として【麦の会】という団体の活動にボランティアとして参加しています。活動の内容は、余暇活動、生活実習、体操教室、プール教室、学習教室などがあります。また年に一回の行事として、親睦バスハイクやクリスマス会のボランティアに参加しています。

学生が主体となってやっている活動としては、【みどり養護学校】での余暇活動(生徒さんとボランティアと一緒に遊びに行く遠足のようなもの)や年1回の高尾山ハイキングがあります。子ども達と一対一で関わるので緊張感もありますが、自分達も楽しみながら出来る活動です。また、不定期ですが神奈川県社協からボランティアの募集があった場合には、参加することもあります。

これからも、お世話になっている【麦の会】や【みどり養護学校】との関わりを大切にしてボランティア活動に取り組んでいきたいです。



経済学部経済学科2年

山本皓哉さん

# ボランティア体験記

スタッフはこんな活動をしました。

## 【らびー】

「子どもとのふれあい」

らびーという団体は、障害入りの家族の方が運営する団体です。

今回は子どもと触れ合えるボランティアをしたいと思い、らびー主催のファミリーコンサートでの保育ボランティアに参加しました。

大変な面もありましたが、ご家族の方が安心してゆっくりコンサートを楽しめるようにサポート出来て良かったです。



経済学部経済学科2年  
安彦 珠美



人間科学部人間科学科2年  
中里 誠志

## 【片倉三枚地域ケアプラザ】

### 「実践型ボランティア」

ボランティアというよりは体験型の活動でした。世代や職業を問わず多くの方が参加していて、雰囲気も良かったです。

機車体験では、実際に強い揺れを体験し、地震の恐ろしさや災害時の対処法などを再確認しました。

心肺蘇生法は、スムーズに行えましたが、実践のためには何回も練習することが大切だと感じました。

## 【神え木地区センター】

「子どもたちと一緒に工作」

最初は子ども達とうまく交流できるか不安でしたが、実際にボランティアが始まると子どもの方から話しかけてくれました。工作は5種類あり、主に紙を使って作りました。

子どもたちの年齢は、3歳から12歳と年齢に幅があり、対応に少し苦労しました。完成した作品で子どもと一緒に走り回って遊んだり、お話が出来たりして充実した一日でした。



工学部機械工学科3年  
児玉 大志

# Book Review

ボランティア支援室のスタッフが  
選びに選んだ(?)本を紹介します!



角田四郎著

『〈一人でもできる〉地震・災害ボランティア入門』

2006年、ふきのとう書房

東日本大震災後、ボランティアをしようと思う人はさらに増えたと思います。しかし同時にどのような活動すればいいのか、自分に何ができるのかを悩む人も増えたことでしょう。

地震や災害が起こったときにどのようなボランティアができるのか、どのような準備をすればいいのかなど地震、災害時のボランティアの基礎が書かれています。活動時の必需品はもちろん、活動中のルールも知ることができます。

新潟中越地震のことを中心に書かれていますが、東日本大震災やこれからの災害に役立にも活用できる内容です。これから東北へボランティア活動に行こうとしている人やそのような活動に少しでも興味がある人はこの本を読んで参考にしてもらえたらと思います。

(経済学部現代ビジネス学科3年 榎本 匠)



西條剛央著

『人を助けるすんごい仕組み』

2012年、ダイヤモンド社

大学院の専任講師である西條氏が立ち上げた日本最大のボランティア団体「ふんばろう東日本プロジェクト」。その東日本大震災における被災地復興活動と、その舞台裏について書かれた本です。

震災直後は、被災地に物資が届きにくい状況でした。そこで西條氏はTwitterを使い、被災地から情報を発信し続けました。気軽な情報の拡散により、必要な場所に必要なものが効率よく届けられる仕組みができたのです。

西條氏はもともと、プロジェクト運営やボランティア活動の経験者ではありません。そんな西條氏はどのように被災地支援を行ったのか。私たちの身近なところにも被災地復興につながる手がかりがあるのではないかと考えさせられる内容でした。

(法学部自治行政学科3年 吉原 葵)

紹介した本はボランティア支援室でも借りられます。